

ありたい姿

5. 良質な農林水産物が生産され、産地力（生産者数×量）が維持・向上されています

政策 11

活力ある持続可能な地域農業の振興

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 令和2年度農業就業者数（農業センサス）は、2,512人で平成27年度の68.1%と減少に歯止めがかかっていません。また、65歳以上の高齢者の割合が72%を占め、農業従事者の高齢化が進んでいます。
- 新たな担い手としての集落営農法人の設立、日本型直接支払制度の活用による農地維持活動の支援と耕作放棄地の拡大防止に取り組んでいます。
- 中山間地域内にある農地を将来に渡って適切に維持管理できるよう、地域の担い手を明確にするための取り組みとして「地域計画（旧人・農地プラン）」を推進しています。
- 天草産農畜産物のブランド化を推進しています。
- 生産量維持・営農意欲の継続、産地維持のため、国県事業はもとより市単独事業の積極的な施策の展開に取り組んでいます。
- 農業農村整備事業管理計画を推進（合意形成）するため、国庫補助事業（新規および継続事業）に事業着手し、事業完了を目指しています。

課題

- 農家数・農業就業者数が減少していることを踏まえ、新たな農業担い手（新規就農者・集落法人等）確保に努める必要があります。
- 中山間地域における農地維持活動の継続と耕作放棄地の拡大防止のため、日本型直接支払制度を活用した取り組みを推進していく必要があります。
- 生産量・営農意欲の維持を図りながら、天草産農畜産物のさらなるブランド化を推進し、農業者の所得向上を目指す必要があります。
- 農業生産基盤の整備を推進し、老朽化する農業用施設の長寿命化を図るなどにより優良農地を保全し、担い手等に係る農業経営の安定を図る必要があります。
- 有害鳥獣対策を推進し、農作物への被害の軽減を図る必要があります。

- 国が示す「みどりの食料システム戦略」に取り組み、持続可能な食料システムの構築、調達から生産、流通、消費までの各段階の取り組みとイノベーション（技術革新）について、本市においても推進していく必要があります。

施策計画

1. 持続可能な地域農業の推進

- 農地と担い手の将来像である「地域計画（旧人・農地プラン）」を引き続き推進し、多様な担い手への農地集積を進め、農業経営の効率化・安定化を図ります。
- 新規就農者の確保を強力に進め、自立・定着までのきめ細やかなサポート体制を維持するとともに、集落営農法人の設立と経営安定化を支援し、持続可能な地域農業を推進します。
- 国が示す「みどりの食料システム戦略」に基づき、有機農業など持続可能な食料システムの構築を推進します。

成果指標名	現状値	前期目標値
主業農家のうち認定農業者の割合	88.8 % (R3年度)	90.0 % (R7年度)
新規農業就業者数（累計）	112 人 (R3年度)	150 人 (R7年度)

2. 農地基盤の整備と優良農地の供給

- 中山間地域の基盤整備事業を加速させるとともに、農業公社による農地バンク制度との一体的な取り組みにより、農地耕作条件を改善し、水田の畑地化、汎用化等を促進させ、担い手農家や新規農業参入企業等への優良農地供給を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
農地整備率	43.2 % (R3年度)	44.3 % (R7年度)

3. 農業用施設の長寿命化

- 排水機場の全体更新を見据えながら、機能診断結果に基づく整備計画書により計画的な改修を行い、長寿命化を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
排水機場の設備等に係る工事件数（累計）	32 件 (R3年度)	42 件 (R7年度)

4. 手取り収入を増やす稼げる農畜産物づくり

- 生産性の向上や品質向上を図るため、現場の実態に応じた天草型のスマート農業の積極的な推進に取り組みます。
- 施設の強靱化を進めるとともに園地の集積・基盤整備を支援し、作物の安定生産や品質向上につなげます。
- 特色ある地域資源を活用した天草産農畜産物の特産品づくりやブランド化を関係機関と連携して行い所得向上につなげます。

成果指標名	現状値	前期目標値
農畜産物の販売高	42.6 億円 (R3年度)	45.0 億円 (R7年度)

5. 農村環境の保全・活用と集落機能の維持

- 小規模農業やそれを支える家族、地域の人々が、営農を継続できるよう日本型直接支払制度を活用して、各集落協定への加入促進、集落協定に基づき行われる農地や農道、用排水路等の維持管理のための共同の取り組みを支援します。
- 復旧可能な耕作放棄地については、基盤整備事業と合わせた解消活動など、地域全体の取り組みを支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
農用地面積に対する日本型直接支払制度対象面積の割合	40.5 % (R3年度)	40.5% (R7年度)

6. 有害鳥獣対策の推進

- 農業被害軽減として、地域全体で勉強会を開催するほか、防護柵等への設置補助を行い、守れる集落・守れる田畑を推進します。
- 狩猟免許取得やわな購入に補助を行い、捕獲による被害軽減を図ります。
- イノシシ捕獲者の負担軽減として有害鳥獣処理施設の利用促進を図り、併せて農業法人へ捕獲許可を行うなど、積極的な捕獲活動を推進し、被害軽減を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
有害鳥獣による被害面積	11.8 ha (R3年度)	7.8 ha (R7年度)

分野別計画

天草市農業振興地域整備計画、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、天草市肉用牛生産近代化計画、天草市有害鳥獣防止計画

この政策に関連する『ありたい姿』

- 3.生涯にわたり学び、学習活動の成果を地域社会で生かすことができます
- 6.ひとづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります
- 7.魅力ある天草産品がつくり続けられ、域内経済が好循環となり、域外へ新たな販路が広がっています
- 8.多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられています
- 13.天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住し暮らしています
- 14.脱炭素社会への取り組みが浸透し、人と自然が共生し活発な環境保全活動が行われています
- 15.資源の循環が図られ、快適なまちづくりが行われています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける
行政組織
運営に



ありたい姿

5. 良質な農林水産物が生産され、産地力（生産者数×量）が維持・向上されています

政策 12

健全な森林保全による林業の活性化

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 天草市の森林は46,277haと全体面積の約67%を占めており、そのうち人工林の割合が43%を占めています。
- 林業労働力の不足や林業経営費等の上昇に起因して林業生産活動が低迷していますが、ウッドショック以降、近年低迷していた木材価格等が上昇傾向にあるなど、林業を取り巻く環境に変化が生まれてきています。
- 台風や渇水等の自然災害が激甚化していることで、森林所有者の林業経営意欲を減退させ、保育や間伐の遅れた森林が増加しています。
- 森林経営管理法が平成31年4月に施行され、新たな森林経営管理制度が開始されました。このことにより、適切な経営管理が行われていない森林の経営管理を本市が担っています。
- 令和2年度林業就業者数（国勢調査）は127人と平成27年度から47人減少し、歯止めがかかっていません。また、令和元年度における林業経営体数（農林業センサス）は55経営体で、そのうち、個人経営体が全体の78.2%を占めています。
- 令和2年に森林環境譲与税ガイドラインを策定し、森林整備や人材育成などに取り組んでいます。

課題

- 人工林を保育・間伐等により生産性のある森林として整備する必要があります。
- 伐期に達した人工林の積極的な主伐による林齢構成の平準化および伐採跡地への植栽等による的確な更新を行い、森林の有する多面的機能を高度に発揮していくことが重要な課題となっています。
- 林業従事者不足が深刻な状況にあり、新規林業就業者、林業担い手を支援する事業を推進し、人材確保に努める必要があります。
- 森林所有者および林業従事者の所得向上につながる支援を図るとともに、林業を活性化させる体制づくりを促進していく必要があります。

- 令和元年度から運用が開始された森林環境譲与税を活用した森林整備、人材育成・担い手確保、木材利用促進等の取り組みを進める必要があります。
- 森林は、二酸化炭素を吸収・固定することで、地球温暖化防止に貢献しており、森林吸収源対策として間伐等の適切な森林整備を進める必要があります。

施策計画

1. 適正な森林整備を推進し緑豊かで元気な森林を維持

- 国県補助の森林整備事業と森林GISデータ（地理情報システム）を活用した森林経営計画を策定し、間伐等森林施業を推進するとともに、これまで手入れが行き届かなかった森林においては、森林環境譲与税を活用した森林整備事業に取り組むことにより、優良な天草産材の育成と緑豊かで元気な森林の維持を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
森林経営計画認定面積	17,719 ha (R3年度)	18,000 ha (R7年度)
環境保全間伐面積	0 ha (R3年度)	50.0 ha (R7年度)

2. 間伐等を推進し林業資源の利活用を促進

- 天草地域森林組合等関連団体と連携し、スギやヒノキ等の間伐等森林施業を推進することで、木材の安定供給を促進するとともに、木材等森林資源の利活用を促進し、所得向上を図ります。
- 地域資源であるヒノキが利用期を迎えてくるため、木を活かすりレー（切って、使って、植えて、育てる）へと発展させるとともに、天草ヒノキによる建築等への木質化や木材を加工した商品開発（家具や木工商品等）を推進し、木材の地産地消を促進します。
- 個人住宅の新・増・改築に対して、天草産材の利用促進の支援を拡充します。
- 新規林業就業者および林業担い手を支援する事業により、担い手の確保、定着のための経営安定化を支援し、地域林業を推進します。
- 林業経営体間の連携強化による経営の安定化・効率化を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
搬出間伐面積	679 ha (R3年度)	700 ha (R7年度)
林業定着支援給付金受給者数(累計)	4人 (R3年度)	10人 (R7年度)

3. 広葉樹等保全活動と資源利活用の推進

- 地域住民が中心となった組織（活動組織）が実施する荒廃した里山林の森林整備事業を推進し、地域の森林の保全管理等や広葉樹・雑木を含めた森林資源の利活用、山村地域の活性化を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
森林保全活動団体数(累計)	5団体 (R3年度)	10団体 (R7年度)

分野別計画

天草市森林整備計画

この政策が関連する『ありたい姿』

3. 生涯にわたり学び、学習活動の成果を地域社会で生かすことができます
6. ひとづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります
7. 魅力ある天草産品がつくり続けられ、域内経済が好循環となり、域外へ新たな販路が広がっています
8. 多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられています
13. 天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住し暮らしています
14. 脱炭素社会への取り組みが浸透し、人と自然が共生し活発な環境保全活動が行われています
15. 資源の循環が図られ、快適なまちづくりが行われています



ありたい姿

5. 良質な農林水産物が生産され、産地力（生産者数×量）が維持・向上されています

政策 13

資源を生かした持続的な水産業の振興

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 本市の海面漁業の漁獲量は平成9年度を境に2万トンを下回り、近年は1万2千トン前後で推移しています。
- 本市の魚類養殖業は県下の7割以上を占め、全国でも有数の産地となっています。
- 海水温の上昇など自然環境の変化により漁獲量が低下していることから、藻場の保全や種苗放流等による資源回復に取り組んでいます。
- 漁場環境の悪化等により魚病や赤潮が頻発し、漁家経営を圧迫しています。
- 市場の集荷能力や価格形成力が低下しています。
- 平成30年度漁業就業者数（漁業センサス）は2,036人で平成25年度の86.4%と減少に歯止めがかかっていません。また、65歳以上の高齢者の割合が42%を占め、高齢化が進んでいます。
- 漁港・海岸施設の老朽化が進んでいます。

課題

- 稚仔魚の育成や産卵の場としての藻場や干潟を保全・回復させるための効率的な対策が必要です。
- 温室効果ガス増加の緩和等の役割を担うアマモ場を中心としたブルーカーボン生態系の保全および拡大が望まれています。
- 環境変化に対応した科学的な根拠に基づいた資源管理を強化する必要があります。
- 漁船漁業の経営安定を図るため事業の多角化等を推進する必要があります。
- 生産性向上のための赤潮や魚病対策が必要です。
- 産地での一次加工等による高付加価値化等の対策が必要です。
- 漁業後継者確保のための人材育成、次世代の後継者確保の取り組みの強化が必要です。
- 漁港や海岸保全施設の老朽化が進んでおり、計画的に対策を講じる必要があります。
- 漁業従事者の高齢化や漁船数の減少による漁協施設の在り方の検討を含めた対策を講じる必要があります。

施策計画

1. 豊かな里海の再生

- 漁業者団体等が行う藻場の保全・再生活動に対し積極的に支援し、ともに取り組みます。
- 漁協等が行う種苗放流に対して積極的に支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
天草漁業協同組合水揚げ量（東海船水揚げを除く）	8,087 t (R3年度)	8,087 t (R7年度)

2. 漁業生産・経営基盤の強化

- 漁獲量の向上や赤潮、魚病対策のため、大学等の関係機関と連携し、調査研究に取り組むとともに、ITを活用した海況や赤潮等の情報収集・提供などスマート漁業を推進します。
- 意欲ある漁業者の経営安定対策の強化に取り組めます。
- 漁業者の利便性や安全性、生産力向上に必要な施設整備等を支援します。
- 漁業後継者の確保のため、担い手の受入先や漁船情報のデータベース化に取り組むとともに、漁業技術の習得、設備投資の経費について国や県と協力して支援を行います。
- 漁港機能保全計画、海岸保全施設長寿命化計画に基づき、計画的な維持補修に取り組めます。
- 国や県の動向を注視し、天草市漁港統合計画の作成に向けた準備を進めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
新規漁業就業者数（累計）	61 人 (R3年度)	101 人 (R7年度)
漁業就業者数（漁協正組合員数）	1,657 人 (R3年度)	1,575 人 (R7年度)

3. 天草の魚の魅力発信と漁村の活性化

- 漁業者等が行う未利用資源の商品化や特産品づくりに対する取り組みを支援します。
- 地域水産物の販売力強化に向けて、漁業者や漁協が行う販路開拓や直販、水産物の認知度向上に繋げる取り組みを支援します。
- お魚給食の日の食材提供、市内小中学生向けの魚食普及講座や体験学習など学校教育と連携した取り組みに加え、天草の多種多様な水産物を活かしたご当地メニューや商品の開発、天草の海や漁村の地域資源としての価値や魅力を活用する海業に関する取り組みを支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
本渡地方卸売市場平均単価	884 円 (R3年度)	884 円 (R7年度)
本渡地方卸売市場取扱量	853 t (R3年度)	853 t (R7年度)

この政策が関連する『ありがたい姿』

3. 生涯にわたり学び、学習活動の成果を地域社会で生かすことができます
4. 歴史と文化を認め合い、天草に誇りを持ち継承されています
6. ひとづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります
7. 魅力ある天草産品がつくり続けられ、域内経済が好循環となり、域外へ新たな販路が広がっています
8. 多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられています
13. 天草での暮らしが共感され、多くの人移住・定住し暮らしています
14. 脱炭素社会への取り組みが浸透し、人と自然が共生し活発な環境保全活動が行われています
15. 資源の循環が図られ、快適なまちづくりが行われています



ありたい姿

6. ひとつづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります

政策 14

商工業の振興と多様な働く場の創造

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 市内の事業者数は、平成28年には4,831事業所となり、平成18年の5,592事業所と比較して、10年間で761事業所が減少しています。なお、令和元年には4,807事業所となっており、平成28年と比べると24事業所が減少しています。
- 商工会議所・商工会の会員数は、平成26年までは平均して年間60社程度減少していましたが、平成27年以降は年間10社未満の減少または令和元年、3年は増加に転じています。（本渡商工会議所は、平成29年から5年連続増加し、牛深商工会議所は令和3年に増加に転じています。）
- 有効求人倍率は、令和2年においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、天草管内は0.95と減少しましたが、令和4年7月現在は、0.99となっています。
- 令和元年7月に実施した事業所アンケートの「事業承継」において、「自分の代で事業の廃業を予定している」と回答した事業者が全体の33.1%となっています。さらにそのうち、後継者がいないと回答した事業者が41.1%となっており、事業承継支援が必要となっています。

課題

- 高校卒業後8割以上の若者が市外へ流出しており、Uターンも厳しい状況です。
- 若者が地元に残りたい、戻ってきたいと思える働く場が少ない状況です。
- 製造業・建設業などにおいては、求人を出しても求職者が集まらない状況です。
- 高校新卒者で就職希望者の内、地元就職率は26.8%と低迷しており、地域経済を支える生産年齢人口が減少しています。
- 若者が魅力を感じる企業の誘致や地場企業の進化と魅力化への転換を後押ししていく必要があります。

施策計画

1. 地場企業の新しい取り組みを応援

- 商工団体をはじめ、地元金融機関との連携強化による起業創業や地場企業が行う生産性向上、販路開拓、新商品開発、事業転換、雇用環境など経営改善に向けた支援を行います。
- 熊本県事業承継・引継ぎ支援センターおよび、あまくさ事業承継サポート会議との連携による円滑な事業承継の支援を行います。
- 事業承継による安定した経営を支援するため、後継者となる次世代を担う経営者（リーダー）としての人材の育成に取り組みます。
- 天草の商品や事業者の競争力の向上を目的に、稼げる事業者およびデザインプロデューサーの育成に取り組みます。
- 県内および市内で合同企業説明会等を開催し、多様な人材による市内事業者の雇用の維持、拡大を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
商工会議所・商工会の会員数	2,601 社 (R3年度)	2,601 社 (R7年度)

2. 企業誘致やリスクリング※による多様な働き方の創出

- 天草にいながら高収入が期待でき、また、雇用吸収力もある生産性の高い製造業やIT企業等の誘致に積極的に取り組みます。
- 若者の就職に人気があるゲーム・アニメ・映像等のCG制作会社の誘致または設立の支援を行います。
- 企業誘致に併せて、即戦力となるクリエイターの育成を行うため、県と連携し地元の高校でのCGコース等の新設に向けて取り組みます。
- プログラミングなどのITのスキルアップできる環境を整備し、起業創業に繋がる人材、誘致した企業や地元企業への地元雇用の拡大を図ります。
- 天草の将来を担う若者が地域の宝等を発見し、起業プログラムなどを通して天草の未来を創造していくことを目的に高校生等を対象としたキャリア教育に取り組みます。
- キャリアアップ研修や就職情報を発信し就職支援を行います。
- 就職情報の発信により、都市部等で働く地元出身者や移住希望者などのU I J ターン就職を支援します。

※リスクリングとは…新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に対応するために、必要な技術的な能力を獲得する／させること（経済産業省資料より）

成果指標名	現状値	前期目標値
新規学卒者の地元就職率（就職者数）	26.8 % (69人) (R3年度)	30.0 % (60人) (R7年度)
第2新卒者の地元就職者数	130人 (R3年度)	134人 (R7年度)
誘致企業数および地元雇用数（累計）	4社2人 (R3年度)	6社12人 (R7年度)

この政策が関連する『ありたい姿』

- 10. 安心して子どもを産み育てられるまちができています
- 13. 天草での暮らしが共感され、多くの人に移住・定住し暮らしています

ともに
学び
ともに
育つ
まち

つな
がり
稼げ
る
まち

やさ
しさ
と
安心
の
まち

自然
と
共生
する
まち

挑
み
続
け
る
行
政
組
む
ま
ち
に



ありたい姿

7. 魅力ある天草産品が作り続けられ、域内経済が好循環となり、域外へ新たな販路が広がっています

政策 15

経済の好循環を生み出す地産地消・地産他消の推進

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 市内の事業者が天草の地域資源を活用した新たな加工・流通・販売等に取り組む場合に必要な機械・設備等の導入および新商品開発、販路開拓などに新商品開発事業として支援を行っています。
- 国の伝統的工芸品指定を受けた天草陶磁器の知名度は、天草大陶磁器展等の開催により年々増加し、島内外からの誘客による経済効果につながっています。
- 市内の生産情報を把握する天草宝島物産公社等が都市部等の企業と市内の生産者や事業者との取引仲介をすることで、小規模生産者が多い天草産品でも必要量を確保することができ、一次・二次産品の取引につながり、市内の生産者や事業者の所得向上につながっています。
- 天草産品等に関心が高く、取引が期待できる事業者やバイヤーを招致し、マーケットインの考え方を学び、生かすことで売れる商品づくり、販路拡大の支援を行っています。
- 令和3年度の市民アンケートによる「意識して天草産の品物を購入（使用）していますか」の回答では、「している」「どちらかといえばしている」と回答した市民が79.3%となっています。
- コロナ禍で天草産品の販路開拓の営業や天草陶磁器関連のイベント等の開催ができず、市内生産者や事業者は経営が厳しい状況にあります。

課題

- 市内で生産される農林水産物について、加工等により高付加価値のある商品への開発が必要です。
- 天草産品のブランド力を訴求するプロモーションが必要です。
- 県内他市に比べて地元での購買率は高いものの、若い世代になるほど地元産の購入にこだわらない傾向にあります。

- 商店街や身近な店舗の閉店などにより、日用品の買い物に不便を感じている買い物弱者が増えていることから、既存店舗の継続営業に向けた支援を検討する必要があります。

施策計画

1. 市場のニーズを捉えた天草製品の付加価値向上ともうかる“なりわい”の創出

- 天草製品を活用した新商品の開発および販路拡大による地産地消・地産他消に取り組む活動を支援します。
- 商品開発によって農林水産物の付加価値を高めるとともに、安価で取引されている規格外品等の価値も高め、市内生産者や事業者の所得の向上につながる支援に取り組みます。
- 天草製品の生產品目や生産量および供給量の把握を行い、首都圏の副業人材による営業活動に取り組みます。
- 天草という高い知名度を活かし、市内の経済団体や生産者組合等と連携して本市を代表する製品の情報発信を積極的に行うとともに、都市圏のバイヤー等と市内の生産者や事業者との商談の機会をつくるなど販路拡大に取り組みます。

成果指標名	現状値	前期目標値
新商品開発に取り組んだ件数（累計）	13 件 (R3年度)	45 件 (R7年度)
商談を成立した件数（累計）	1 件 (R3年度)	24 件 (R7年度)

2. やきものの産地化を推進

- 国の伝統的工芸品の指定を受けた天草陶磁器を活用し、天草を陶磁器の島としてさらに発展させていくため、天草陶磁器の島づくり協議会が行う陶磁器の産地化、島外への出展、技術継承および後継者育成への取り組みを支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
陶磁器イベントへの来場者数	22,773 人 (R元年度)	27,000 人 (R7年度)

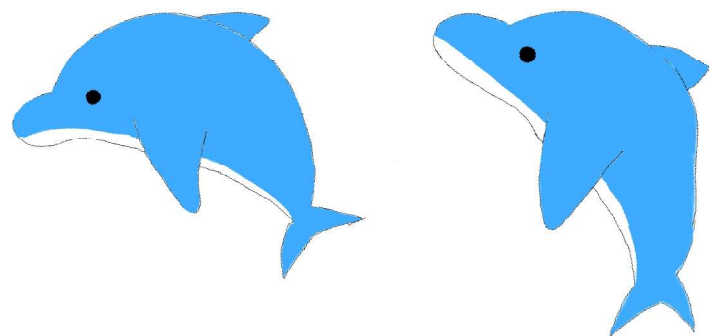
3. 市内での消費循環を拡大

- 経済団体等と連携し、市内で生産される農林水産物や加工品、陶磁器、サービス等の域内消費を増やすための取り組みを支援します。
- 商店等の顧客増加に向けた取り組みを支援し、市の様々な事業と連携した商店等の活性化を進めます。
- 商品券発行による電子商品券アプリ「天草のさりー」の普及を図り、市民や観光客等による市内消費循環につながる一つ的手段として取り組みを支援します。

成果指標名	現状値	前期目標値
電子商品券アプリ天草のさりー利用者数	21,368 人 (R4年9月)	24,000 人 (R7年度)
空き店舗を利用した新規事業者数(累計)	1 事業者 (R3年度)	6 事業者 (R7年度)

この政策が関連する『ありたい姿』

5. 良質な農林水産物が生産され、産地力（生産者数×量）が維持・向上されています
6. ひとつづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります



ありたい姿

8. 多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられています

政策 16

魅力ある観光の創造

関連するSDGsゴールマーク



現状

- 本市は、雲仙天草国立公園にも指定されている自然景観をはじめ、イルカウォッチングや化石採集等の体験、世界文化遺産に登録された崎津集落やキリシタン文化、豊富な農林水産物など多彩な地域資源に恵まれています。
- 近年は自然災害やコロナ禍の影響により観光需要が減退し、さらに、旅行形態の変化やニーズの多様化に加え、地域間競争が激しさを増しており、令和2年の宿泊者数は約20万人と大きく減少しています。
- 天草ならではの価値ある資源、「本物」の資源を市民に再認識いただき、データ分析に基づいて効果的に観光情報を発信することで誘客につながるよう取り組んでいます。

課題

- 観光地経営の視点に立ち、多様な関係者の合意形成、体系的なデータ収集・分析に基づいた実効性の高い戦略を策定し、実行体制の強化により、観光振興を図る必要性が高まっています。
- 近年は混雑を避けたマイクロツーリズム（近場の旅行）化が進み、日帰り旅行の増加や滞在時間が短縮する傾向にあるため、観光拠点の魅力向上と併せて、拠点における発信力の強化により周遊へとつなげ、観光消費の拡大を図る必要があります。
- 継続性の高い観光振興を図るためには、観光によるまちづくりに対する市民の理解を深め、共に創造することが重要です。そのために、観光事業者のリーダー育成をはじめ、市民の地域に対する愛着や誇りを醸成し、併せて、幅広い観光に関連する産業と連携しながら、継続性の高い稼げる観光によるまちづくりを推進する必要があります。

施策計画

1. 地域資源を生かし周遊・滞在・交流につなげる「魅力づくり」

- 多様な地域資源を掘り起こし、事業者、市民、観光協会を中心とする関連団体、行政が主体的かつ継続的に磨き上げを行うことで魅力の向上を図ります。
- 周辺自治体や連携自治体、関連団体等と連携した広域周遊ルート、市内周遊ルートの提案や、教育旅行、インバウンド（外国人観光客）誘客への対応を図るとともに、「本物」の資源をさらに磨き上げることで選ばれる観光地、稼げる観光地を目指します。

成果指標名	現状値	前期目標値
宿泊客観光消費額	52億7,000万円 (R2年)	78億6536万円 (R7年)

2. 周遊と滞在を促進する「観光インフラ」の充実

- 道の駅などの観光拠点施設における情報発信機能の充実を図るとともに、老朽化施設の統廃合を進め、効率的な施設運営を行います。
- 関連団体等と連携して、地域資源である景観の維持や、宿泊・飲食・物産・体験施設等がそれぞれ連動することで観光客の受け皿の充実を図ります。
- 陸海空の交通事業者、旅行事業者等と連携し、観光客の利便性の維持・向上を図ります。

成果指標名	現状値	前期目標値
観光拠点施設等への来訪者数	745,183人 (R3年度)	852,533人 (R7年度)

3. ニーズを把握し、誘客へつなげる「観光プロモーション」

- 多彩で魅力的な観光情報を伝え、多くの人を訪れたい観光地とするために、SNSやビッグデータを活用するとともに、観光動向調査や車両ナンバー解析システム等で得られたデータに基づいた戦略的な手法・手段（マーケティング）を用いて、より効果的な情報発信（広告宣伝活動・観光プロモーション）を行います。
- インナープロモーション（市民向けの観光情報発信）により、観光産業がもたらす地域経済への効果や、歴史・文化などの地域資源への再認識を促し、誇りや郷土愛を醸成することで、市民が自ら、観光客へのおもてなしや観光情報を発信する力の強化に努めます。

成果指標名	現状値	前期目標値
宿泊客数	20万2,000人泊 (R2年)	30万1,000人泊 (R7年)

分野別計画

天草市観光振興アクションプラン

この政策が関連する『ありたい姿』

4. 歴史と文化を認め合い、天草に誇りを持ち継承されています
6. ひとづくり・ものづくりで郷土にやりがいを感じ、働ける場所があります
16. 豊かな自然と向き合い、保全・活用する仕組みができています

ともに学び
ともに育つまち

つながり稼げるまち

やさしさと安心のまち

自然と共生するまち

挑み続ける
行政組織
運営に

